

## 高雄の新観光スポット

(財) 交流協会 高雄事務所次長 菅原 忠

昨年12月25日、高雄市は高雄県と合併し、人口は台北市を上回る約277万人の大・高雄市が誕生した。市政府は高雄“市”ではなく高雄“縣市”(創作字。県ヘンに市で「都」を意味するピンインを付記・中国語の発音は「du。))と称し、“縣市”の字を新高雄市のシンボルとして大きく市庁舎に掲げ、市職員等は名刺にも記しています。再選(新市としては1期目)を果たした陳菊市長は、就任演説で重工業中心の旧高雄市と農業主体の旧高雄県との格差是正を掲げ、改めて三大産業(ハイテク、クリエイティブ、物流)ベルト地帯構想の経済政策等を述べていますが、観光については特に目立った政策は語っていない。

高雄市の観光名所と言えば左営・蓮池潭の“龍虎塔”。かつて「地球の歩き方・台湾」の表紙を飾り、観光ポスターにも採用された台湾を代表するスポットですが、実際に訪れると(その稚拙な造りに)ガッカリさせられます。それでは他へご案内、六合夜市、旗津・さて本当に喜んで貰えるでしょうか(あくまで私見です。)。毎年、台湾には日本から100万人以上が訪れる。そのうち高雄を訪れる人は約20万人(宿泊ベース)。全てが観光客ではないでしょうが、2007年の高鉄(台湾新幹線)開業により台北-高雄(左営)間を最短で1時間半で結ぶ至便さを得たのと引き替えに、これまで多くのビジネスマンにとって最低一泊は必要だった南部出張が幸か不幸か日帰りとなっている現実を知ると、この数字の殆どが観光客と見る。観光資源の整備不足と来訪者の滞在時間の縮小が、ホテルや毎日高雄港に入る新鮮な魚介を売りにする海鮮料理店等に打撃を与えている実態から、観光対策は喫緊の命題だろうと思っていた。

ところが昨年12月18日にオープンした義大世界(E-DA WORLD)が大方の予想(「高雄県の丘陵地」に人が来るのか疑問。)を覆し連日大勢の来訪者を呼び寄せている。義大世界は47のアトラクションがあるテーマパーク、客室総数1,000室に上る2つの豪華な大型ホテル、GUCCI、COACH等有名ブランド・専門店が200(将来300)以上出店する台湾初と言われる本格的OUTLET-MALL等を備えた総面積90ヘクタールにおよぶ複合商業施設。左営駅など高雄市内6ヶ所からシャトルバスが運行されそれぞれ約30分で到着する。

同大型ホテルの1つ天悦大飯店で副総支配人を務める日本人のHさんは、長年のホテル経験の中で開業初年度から80%を超える客室稼働率を記録するのは初めてと語る。また当地日刊紙では、同ホテルは7月以降90%以上の稼働率に達したこと、高雄市内の主要ホテルも義大世界のテーマパーク入場券との組み合わせ販売によりかつて無い稼働率を挙げている他、市内観光スポットも恩恵を受けていると報じている。H副総支配人に中国人観光客が多いのか伺ったところ、95%が嘉義県以北の台湾内の方々に、老夫婦と若夫婦に孫といった家族連れや日本人も予想以上という意外な回答。さらに台湾随一のリゾート地・墾丁に行く観光客にとって高雄は高鉄の終点&バス乗り換えの素通り地に過ぎなかったのが、義大世界→高雄泊→墾丁という新たな人の流れを作っていると指摘する。同OUTLET-MALLでは1日の売上げ数百万元を出した店もあり、今後、高雄の観光スポットとして根付くのか、暫くは義大世界から目が離せません。